

令和5年度 学校図書館基本計画・評価シート

足立区立大谷田小学校 校長 菅原 秀道

1 学校教育目標

- ①よく考える子：自ら考え、自ら学び、チャレンジする子
- ②心豊かな子：あいさつをきちんとし、誰に対してもやさしく思いやりのある子
- ③たくましい子：すすんで体を動かし、心身ともに健康でたくましい子

2 学校図書館の目標・ねらい 一身に付けさせたい資質・能力、意欲・態度一

- ① 児童の読書に対する意欲を盛んにし、豊かな心情と幅広い知識を身に付けさせる。
- ② 多様な資料から目的に応じた情報を選んで課題解決する能力を伸ばす。
- ③ 様々な取り組みを通して本の楽しさに触れ、日常的に本に親しむ態度を養う。
- ④ 学校図書館及び校内の図書に関わる環境を整え、児童の読書に対する意欲を高める。

3 学校図書館の現状（令和4年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 10076 冊（蔵書基準冊数 7854 冊）／蔵書率 128.2 %									
	② 新規購入図書 466 冊／廃棄図書 494 冊／増減冊数 -28 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	1.81%	1.01%	7.18%	7.2%	16.76%	6.41%	3.31%	9.81%	4.97%	41.54%
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%
利活用の状況	① 開館時間：授業中、中休み、昼休み（前年度からの変更 あり・ なし ）									
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 27.3 冊（前年度末： 31.74 冊）									
	③ 1か月に2冊以上読む児童 51.3 %（前年度末： 65.6 %）									

（令和5年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 9808 冊（蔵書基準冊数 7854 冊）／蔵書率 124.9%									
	② 新規購入図書 447 冊／廃棄図書 752 冊／増減冊数 -305 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	1.5%	0.8%	5.4%	5.6%	10.4%	5.4%	2.8%	7.4%	3/8%	56.8%
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%
利活用の状況	② 開館時間：授業中、中休み、昼休み（前年度からの変更 あり・ なし ）									
	③ 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 10.403 冊（前年度末： 27.3 冊）									
	④ 1か月に2冊以上読む児童 65%（前年度末： 51.3%）									

4 目標達成に向けた今年度の重点指導事項・具体的取り組み

第1学年	①読書に親しみ、いろいろな読み物に興味を持てるようにする。 ②学校図書館の利用の仕方を知り、きまりを守って利用する態度を育てる。	
今年度の成果目標		達成基準
①読み聞かせや授業をきっかけとして、自分の興味のある本を探し、読書することができる。 ②学校図書館の本を利用して読書をする経験を重ね、いろいろな読み物があることを知る。 ③学校図書館の利用のきまりを知り、使えるようにする。		①各クラス月2回以上、図書の授業を学校図書館で行う。 ②一人当たり年間100冊以上の本を読む。 ③学校図書館オリエンテーションを全クラスで実施する。
目標達成状況	①ほぼ毎週、図書の授業を学校図書室で行うことができた。休み時間なども利用して本の貸し出しを行ったので、興味のある本を探し読書に親しめた。 ②年間100冊達成児童は50%だったが、100冊以上読んだ児童の中には、300冊以上読んだ児童もいた。 ③学校図書館オリエンテーションは、5月に全クラスで実施し、貸し出しや返却の仕方などについて行った。	

第2学年	①読書に親しみ、いろいろな読み物に興味を持てるようにする。 ②学校図書館の利用の仕方を知り、きまりを守って利用する態度を育てる。
今年度の成果目標 ①読み聞かせや授業をきっかけとしたり、友達と本を紹介し合ったりして、自分の興味のある本を探し、読書することができる。 ②図鑑や科学的な読み物について読書し、その内容を友達に伝えることができる。 ③きまりを守って、学校図書館を利用することができる。	達成基準 ①各クラス月2回以上、図書の授業を学校図書館で行う。 ②一人当たり年間150冊以上の本を読む。 ③国語や生活科など、学校図書館の本を使った探究的な活動の授業を年間2回以上行う。
目標達成状況	
①週に1回図書館を設けたことで、すすんで読書を行った。 ②読書目標2000ページ達成児童は56%。10000ページ以上読書した児童は8人だった。読書の記録をしていない児童が多かった。 ③図鑑を使った調べ学習を2回行った。本の探し方を知り、探すこともできた。	
第3学年	①幅広く読書に親しみ、様々な知識を得ようとする意欲を育てる。 ②自分が知りたいことについて資料や情報を集め、活用する力を育てる。 ③きまりを守り、進んで学校図書館を利用する態度を育てる。
今年度の成果目標 ①自分の興味のある本だけでなく、それに関連する本を探して読書することができる。 ②調べ学習を通して、図書を活用し分かったことをまとめることができる。 ③学校図書館の本の種類、配置や本の探し方を知ることができた。	達成基準 ①各教科等で学校図書館の本を使った探究的な活動の授業を年間2回以上行う。 ②一人当たり年間2000ページ以上の本を読む。 ③学校図書館での本の探し方、百科事典の使い方など、調べる学習オリエンテーションを全クラスで実施する。
目標達成状況	
①社会科や総合的な学習の時間で学習したことを新聞にまとめた。その際、図書館の本も活用した。 ②国語科「おすすめ図書カード」の学習を通して、互いに好きな本を紹介し合い、ふだん読む機会の少ないジャンルの本を読む活動を行った。 ③図書の分類や探す方法などについて、周知を図った。	
第4学年	①幅広く読書に親しみ、様々な知識を得ようとする意欲を育てる。 ②自分が知りたいことについて資料や情報を集め、活用する力を育てる。 ③きまりを守り、進んで学校図書館を利用する態度を育てる。
今年度の成果目標 ①自分の興味のある本だけでなく、それに関連する本を進んで読書することができる。 ②百科事典や図鑑等から分かったことをまとめ、説明することができる。 ③学校図書館の本の種類、配置や本の探し方を知り、必要な本を選ぶことができる。	達成基準 ①各教科等で学校図書館の本を使った探究的な活動の授業を年間2回以上行う。 ②一人当たり年間3000ページ以上の本を読む。 ③学校図書館での本の探し方、百科事典の使い方など、調べる学習オリエンテーションを全クラスで実施する。
目標達成状況	
①国語科や社会科、総合的な学習の時間で調べ学習をする際、学校図書館の本を多く利用した。 ②読書目標3000ページを達成した児童は25%。記録をしておらず、達成しなかった児童もいた。 ③国語科「『不思議ずかん』をつくろう」では、情報を集めて活用し、著作権や引用の仕方も学習した。	

第5学年	①適切な読み物を選び、読書を通して自分の考えを広げようとする意欲を育てる。 ②計画的に資料や情報を収集し、適切に活用することができるようにする。 ③きまりを守り、進んで学校図書館を利用する態度を育てる。
-------------	---

今年度の成果目標	達成基準
①興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ②複数の本や新聞等から分かったことをまとめることができる。 ③学校図書館の利用の仕方について、より利用しやすい方法について考えることができる。	①各教科等で学校図書館の本を使った探究的な活動の授業を年間2回以上行う。 ②一人当たり年間 3000 ページ以上の本を読む。

目標達成状況	
①年間を通して国語や総合的な学習の時間で学校図書館の資料を活用した調べ学習を行った。 ②読書目標を達成した児童は20%であった。記録をしておらず、達成しなかった児童が多かった。 ③様々なジャンルの本を借りて、図書の日以外にも読書をしている児童が多かった。	

第6学年	①適切な読み物を選び、読書を通して自分の考えを広げようとする意欲を育てる。 ②計画的に資料や情報を収集し、適切に活用することができるようにする。 ③きまりを守り、進んで学校図書館を利用する態度を育てる。
-------------	---

今年度の成果目標	達成基準
①興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ②複数の本や新聞等から分かったことをまとめ、説明することができる。 ③学校図書館の利用の仕方について、より利用しやすい方法について考え、友達に伝えることができる。	①各教科等で学校図書館の本を使った探究的な活動の授業を年間2回以上行う。 ②一人当たり年間 3000 ページ以上の本を読む。

目標達成状況	
① 社会科の学習と関連させて、朝の会や授業の導入で日直が新聞記事から題材を選び、スピーチを行った。このことにより、読書への関心意欲が高まった。 ② 調べる学習コンクールへの参加は各クラス1～2名と少ないが、毎日各クラスに届く新聞を活用して興味のある事柄について自分の考えをまとめ、表現することができた。 ③ オリエンテーションの実施は1回のみだったが、休み時間や授業時間の利用を通して、学校図書館のきまりや仕組みを知ることができた。	

5 学校図書館環境整備に関する取組計画・方針及び成果・効果	
取組計画・方針	成果・効果
【蔵書・配架等に関すること】 ①蔵書構成や各教科の学習を念頭に置き、新規図書購入リストを作成する。 ②支援員やボランティアと連携し、寄贈本や新規図書の受け入れを迅速に行う。	①各学年の学習を念頭し、新規図書購入した。 ②支援員やボランティアと連携し、寄贈本や新規図書の受け入れを迅速に行い、新規図書の展示を行った。
【学校図書館支援員との連携・協働】 ①学校図書館オリエンテーションや調べる学習オリエンテーション、ブックトークや資料収集など、支援員の積極的な連携・協働に取り組む。 ②支援員やボランティアとの連携を深め、明るく楽しい学校図書館づくりを実践する。	①学校図書館のオリエンテーションを行い、児童の図書館の利用に関するルールを周知した。 ②ボランティアによる定期的に読み聞かせを行ったことで、読書をする児童が増えた。
【その他】 ①読書目標を活用し、読書習慣を身に付ける。 ②貸出冊数を1人2冊まで可とする。	①必読書リストの活用はできなかったが、読書の記録を利用し、読書指導を各クラスで行った。 ②年間を通して2冊までの貸し出しを行った。年間児童一人あたりの貸出冊数では、昨年度よりも5.47冊増えた。

6 学校図書館運営全体に関する自己評価（成果・課題・改善の方向性等）

○児童の運動不足解消や体力向上のため、今年度も雨天時以外の休み時間には全児童の外遊びを実施した。そのために図書室や教室で読書をする機会は減っている。また、タブレット端末の利活用により、図書を用いての調べ学習の機会も少なくなった。こうした避けられない状況の中ではあるが、読書活動推進も本校の重要な取組事項でもあり、各学年とも計画を立て、目標を設定し取り組んできた。年度途中からは、各学年の教科学習に関連する図書を集めて、特別な場所に提示した。図書室へ行かなくても日常的に本を手に取り、調べる機会を創出し画期的であった。また、年間の一人当たりの貸出冊数が5冊も増えたことにも驚いている。支援員、教員、ボランティアの3者が、それぞれの立場から、意図的・計画的に利活用を推進できた成果と考えられる。

7 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（学校関係者から）

○週2日の図書館支援員の他に、図書ボランティアによる読み聞かせや環境整備等、人的にも恵まれている状況である。学校側が設定した各学年の目標は達成率から考えると、アフターコロナの現状には合っていないのではないかと思われる。休み時間は原則外遊びのうえ、放課後の図書室開放もない状況で、子どもたちは、学校生活の中で本になかなか向き合えないのではないか。そうしたことも踏まえた目標を設定すべきである。